

# 外国人に生活ガイド

## 不況で雇用保険の項目も

ねこじやし茅野

茅野市が、市内で暮らす外国人をサポートするためNPO法人ねこじやし茅野（岡元春美代表）に委託して製作していた今年度の生活ガイドブックが完成した。英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語、韓国語の5カ国語。ポルトガル語のガイドブックには不況の影響で仕事を失うブラジル人が増えていることから労働基準法など就労に関する説明を増やしたのが特徴。（保延悟）

ガイドブックには火災や事故な 請、教育機関、予防接種、医療、と緊急時の対応や各種届け出・申 税金、買い物や住宅、ごみの出し

方など日常生活に必要な情報が各国言語に翻訳され記載している。

ねこじやし茅野が13年前から製作しているが、2002年から市の業務委託を受けた。外国人による状況の違いなどにも配慮しながら毎年内容を見直し更

新。今年度は、経済情勢の悪化から雇用保険などの項目を加えた。A4判だが、5カ国語それぞれページ数が異なる。計1200部を製作し外国人登録に市役所窓口を訪れた人に手渡したり公共施設、大型スーパー、教会などに置いている。

18日には岡元代表らが市役所を訪れ完成したガイドブックを柳平千代一市長に手渡した。柳平市長は「市民プランにも盛り込んだ共生社会を目指し施策を行っていきたい。活動に感謝する」と述べ、岡元代表は「仕事がなくなった外国人などの力になれるよう頑張りたい」と話した。

外国人をサポートするため製作した5カ国語の生活ガイドブックを柳平市長に手渡すねこじやし茅野の岡元代表ら

市内の外国人登録者数は4月1日現在で1042人（前年同月比71人減）。国籍はブラジル297人、中国267人、フィリピン208人などが多い。市が毎月1回行っている外国人のための相談会では従来の入国・戸籍、教育などに加え、不況の影響で求職や住宅問題などの相談が増えたという。